

## 『新・九工大付属図書館の設計』

### 本に囲まれた学生と地域の人々のための居場所を建築デザインする

#### 【新・九工大付属図書館の建築デザイン提案展 について】

建設社会工学科の建築設計製図Ⅲでは、毎年、公共性の高い施設（小学校、高齢者施設、集合住宅等）の設計を提示し、各学生個人個人がこれに対して、現状の課題、その場所が持つポテンシャル等のリサーチした上で、設計条件で要求された機能、規模に沿って、理想としての施設のあり方、環境のあり方、人々のアクティビティー等について提案し、教員がこれを1：1で丁寧に指導しています。本優秀作品展示は、そのような建設社会工学で実施されている建築デザインにおけるPBL科目を、学内、多分野の皆様にも見ていただきたく開催しておりますので、是非、ご自由にご見学され、作品や課題に対してのご意見を頂けると幸いです。

#### 【設計課題の要旨】

1909年に北九州市戸畑区に設立された九州工業大学は、100年という時間を経て、開学当初の『技術に堪能(かんのう)なる士君子』という理念を踏まえながら、現在「知と文化の情報発信拠点」として地域の重要な高等教育・研究施設として発展してきている。

また、キャンパス計画においては、開学当初の辰野金吾設計の木造校舎群、正門・守衛室（1909年）、鳳龍会館と記念講堂（1960年 清家清設計）、製図講義棟（2013年 古森弘一設計）等の分散配置が持つ良質で適正規模の建物と周囲の緑陰環境との隣棟間隔・密度が現在でも維持されており、正門正面や、キャンパス最南端に位置するグラウンド周囲には、開学当初からの松林等をはじめとして、キャンパスの至るところに良好で豊かな緑陰環境が維持されている。

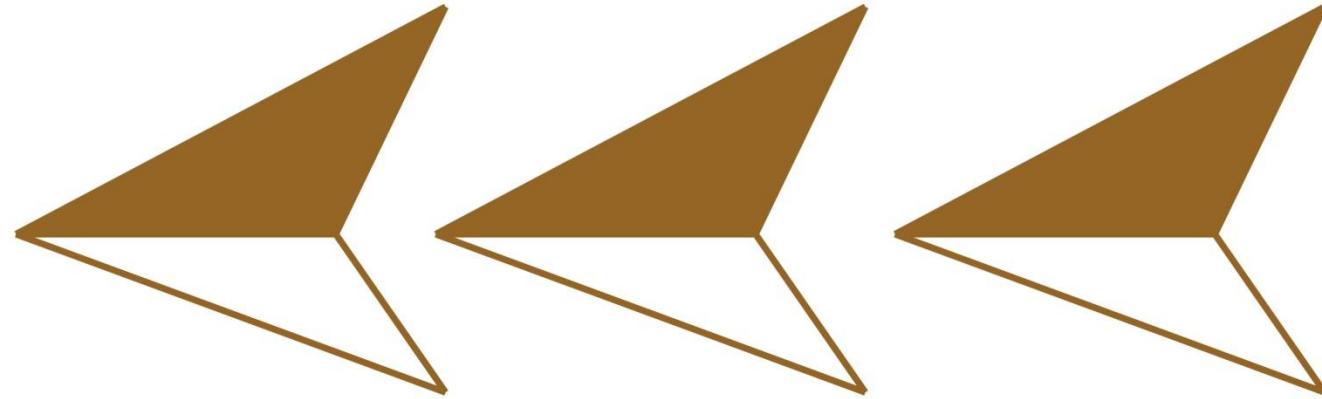
その中で、キャンパスの中心位置に近い九州工業大学付属図書館も平成7年には南側が増築され、昨今では1階にラーニングコモン等のフリースペースも整備され、学生の自由度の高い利用や一般の地域の方も閲覧できるように機能も充実しつつある。しかしながら、まだまだ、43万冊という蔵書数に対してフロア面積が十分とは言いきれず、集密書架や閉架書庫に近い製本された書籍を利用しているのが実態である。また、現在、図書館南側の共用2号館（通称旧マテリアル棟）が耐震等老朽化から機能停止となり、その新たな利用が模索されている事実があり現時点では未定ではあるが、将来、このスペースを図書機能や学生の居場所として積極的に利用できる可能性も出てきている。

本設計課題では、そのような状況を踏まえた上で、九工大付属図書館の建替案を敷地条件を拡大した上で条件提示し、現実の課題を踏まえながらも、自由で豊かな発想で、未来の九工大図書館のあり方について、思い切った夢のある建築デザイン提案を学生に求めた。（建設社会工学系 建築デザイン研究室 佐久間治）

現在の九工大付属図書館

設計敷地範囲





向かって左、  
ラウンジにて...

設計製図Ⅲ課題

# 『新・九工大附属図書館の設計』

一本に囲まれた学生と地域の人々のための

居場所を建築デザインするー

学生提案を展示中です。(～8/12)

ぜひ、ご覧下さい。



